

環境性能の高い船舶の寄港促進に向け入港料減免基準を見直します ～ESI2.0 への移行に対応し減免対象スコアを変更～

横浜市は、横浜港の国際競争力の強化及び港湾・海運の脱炭素化の取組を推進するため、2017年から国際港湾協会（IAPH：International Association of Ports and Harbors）が運用する環境に配慮した船舶の寄港促進を図る ESI 制度（ESI：Environmental Ship Index）に参加し、環境性能の高い船舶に対して入港料の減免を行っています。

このたび、ESI 制度は、次世代船舶燃料の導入拡大や陸上電力の利用、そして革新的な新技術への対応を目的として、2027 年 1 月から ESI2.0 へと発展します。これに伴い、船舶の評価方法が見直され、対象船舶が有するスコアが大きく変わります。

そこで、横浜市は、ESI 制度が今後も世界中の港や船会社に支持される有益な取組であり続けるよう、環境配慮船として妥当と考えられる船舶に対し引き続きインセンティブを付与する観点から、入港料減免対象スコアを見直します。



1 見直し内容

- ・変更内容：減免する事由を、ESI 制度対象船舶のスコア 30 以上から 20 以上に変更します。
- ・適用開始日時：日本時間 2027 年 1 月 1 日（金）の入港船舶から

減免する事由	減免額
ESI 制度対象船舶でスコア ~~30~~ → 20 以上の船舶及びグリーンアワード財団の認証船舶	入港料 15%相当額

2 対象スコアの設定根拠

横浜市では、ESI 制度による環境配慮船の寄港促進という趣旨を維持するため、制度変更後も従来と同程度の水準の船舶にインセンティブを付与することを基本的な考え方としました。

（1）算定根拠

裏面のグラフ 1 のとおり、現在の ESI1.0 ではスコア 30 以上の船舶が参加船舶全体の概ね半数を占めています。一方、ESI2.0 では評価方法の見直しによりスコアの数値が全体的に小さくなるため、同様の考え方で整理すると、スコア 20 以上の船舶が概ね半数を占めることとなります。

このため、ESI2.0 への移行後も従来と同程度の割合の環境配慮船にインセンティブを付与する観点から、減免対象スコアを 30 点以上から 20 点以上へ見直します。

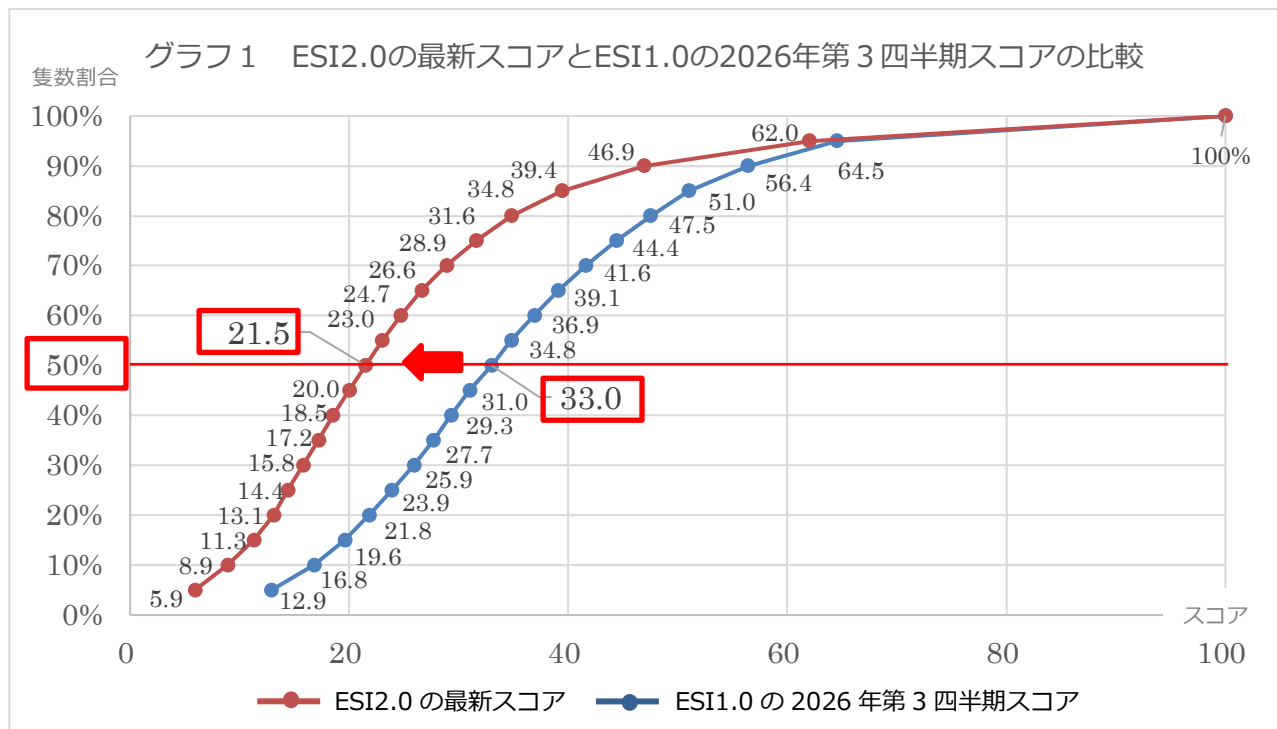
裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷





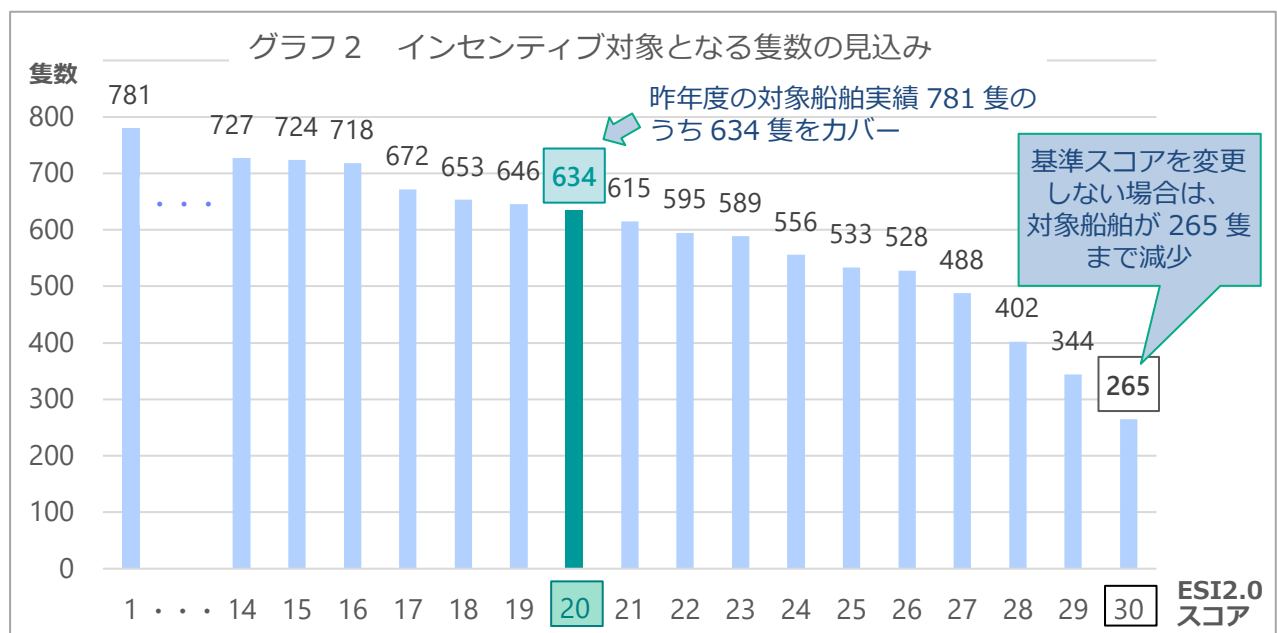
出典：OceanScore 社の提供資料から作成

※ グラフは参加船舶 5,738 隻をスコア順に並べた累積分布を示したものであり、スコアが高いほど環境性能が高いことを表しています。また、本グラフでは縦軸の割合に対応するスコアを読み取るため、縦軸の値が低いほど、そのスコア以上の船舶数は多くなります。縦軸 50%に対応するスコアは参加船舶群の中央値を表しており、ESI1.0 では約 33 点、ESI2.0 では約 21.5 点となっています。これより、概ね ESI1.0 では 30 点以上、ESI2.0 では 20 点以上の船舶が参加船舶全体の半数以上を占めていることが分かります。

(2) 横浜港の今後のインセンティブ対象隻数の見込み

新制度における ESI2.0 スコアを横浜港の入港船舶実績に適用して試算したところ、グラフ 2 のとおりスコア 20 以上を減免対象とした場合、昨年度のインセンティブ付与船舶実績 781 隻中 634 隻が対象となり、約 8 割の船舶をカバーできることを確認しました。

スコア 20 は ESI2.0 参加船舶全体の概ね半数以上を満たす水準であり、ESI 制度の趣旨を維持しながら、横浜港を利用する船舶の実態にも配慮した基準であると考えています。



次頁あり



GREEN x EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



3 船舶代理店の皆様へ

○減免申請に必要な書類は、これまでどおり、①入港料減免申請書、②ESI 制度運営者が発行する Certificate (証書) の写しですが、2027 年 1 月 1 日以降の減免申請は ESI1.0 証書では受け付けられませんので、必ず ESI2.0 証書で減免申請をお願いします。

○ESI2.0 の証書に関する本日時点の情報は次の通りです。

- ・2027 年 1 月 1 日から発行
- ・現在 ESI 1.0 証書を保有する船舶は、2027 年 1 月に ESI 2.0 証書を受領予定
- ・現在 ESI に参加していない船舶が 2026 年 12 月 31 日までに ESI 制度に参加しようとした場合、ESI1.0 のスコアは付与されず、2027 年 1 月に ESI 2.0 証書を受領予定

4 ESI 制度運営者コメント (OceanScore 社 トーマス・スミス氏、Head of Cargo Solutions)

"We welcome the City of Yokohama's forward-looking decision to adjust its ESI thresholds as the industry moves to ESI 2.0. The updated methodology generally produces lower scores than ESI 1.0, but this reflects changes in the scoring formula, not a decline in vessels' environmental performance. Revisiting incentive thresholds helps ensure that ports continue to reward the environmental performance their schemes were designed to encourage. Yokohama's decision does exactly that, and it demonstrates a clear commitment to using ESI as a practical tool for cleaner shipping." said Thomas Smith, Head of Cargo Solutions at OceanScore.

「ESI 2.0 への移行に向けて横浜市が ESI 制度対象船舶の減免対象スコアを変更するという先見性のある決定を下したことを歓迎します。新たな評価手法では、一般的に ESI 1.0 よりも低いスコアが算出されますがこれは計算方法の変更によるものであり、船舶の環境性能が低下したことを意味するものではありません。減免対象スコアを見直すことは、ESI 制度が本来奨励する高い環境性能を有する船舶に対して、港湾が引き続き適切なインセンティブを付与する一助となります。横浜市のこの度の決定はまさにその趣旨に沿うものであり、ESI 制度をよりクリーンな海運を推進するための実践的なツールとして活用していく明確な決意を示しています。」

【参考 1】 ESI (Environmental Ship Index : 環境船舶指数)

ESI は、国際港湾協会が運営する国際的な船舶環境評価制度であり、国際海事機関 (IMO) が定める環境基準を上回る環境性能を有する船舶を評価・認証する制度です。船舶から排出される窒素酸化物 (NOx) や硫黄酸化物 (SOx) の削減性能を評価するとともに、温室効果ガス (GHG) に関する情報も反映したスコアを付与することで、船舶の環境性能を客観的に評価しています。

ESI には世界各国の船会社と港湾が参加しており、参加港湾は ESI スコアに応じた港費減免などのインセンティブを提供することで、環境性能の高い船舶の寄港を促進します。このような国際連携を通じて、海運分野における脱炭素化の推進や港湾周辺の大気環境の改善に貢献しています。

- ・有効スコア保有船舶数 : 5,738 隻 (2026 年 9 月時点)
- ・インセンティブ提供団体数 : 72 団体 (2025 年 10 月時点)
- ・URL : <https://www.environmentalshipindex.org/>

※ 国際港湾協会 (IAPH) は、世界の港湾管理者、港湾関係団体及び企業等で構成される国際組織であり、港湾分野における国際的な連携・発展を推進する国連の諮問機関です。

裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



【参考2】OceanScore 社（オーシャンスコア社）について

OceanScore 社（主要拠点：ドイツ・ハンブルク）は海運会社、港湾、金融機関向けに、海事分野の規制対応及び排出量管理ソリューションを提供する企業です。

2026 年 1 月 1 日から ESI 制度の管理運営業務を IAPH から受託し、船舶から報告される環境データの管理・確認、参加船社への支援、制度運営に係る技術的な管理を担っています。

また、IAPH と連携し、制度の透明性・公平性の確保や、国際的な規制動向を踏まえた制度の改善に取り組んでいます。



【参考3】横浜港の環境配慮した船舶に対するインセンティブ制度

横浜市は ESI 制度のほかに、LNG 燃料船、メタノール燃料船、横浜港でバイオ燃料を補油した船舶等に対してインセンティブを付与しています。詳細は次の URL をご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/yokohamashi/yokohamako/kkihon/kankyo/20170317185752.html>

＜お知らせ＞

■Global Ports Safety 国際セミナー@パシフィコ横浜ノース（2026. 11. 25～26）

本セミナーは、フランスの国際協力機関である Expertise France と横浜市の共同開催により、東南アジアと南アジアの港湾・エネルギー関係者を対象とする港湾と海運の次世代燃料の脱炭素化に関する国際セミナーです。

日本側からは きっかわたけお 橘川武郎 国際大学学長（横浜港 CNP 協議会座長）、国土交通省港湾局・海事局、三菱ガス化学株式会社、日本郵船株式会社、電源開発株式会社、横浜市港湾局が登壇します。また、ENEOS 株式会社、東京ガス株式会社には事業所視察に御協力いただきます。



GLOBAL PORTS SAFETY

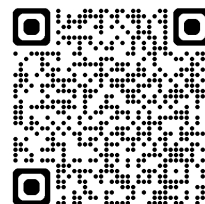


■OXExpo@パシフィコ横浜展示ホール C（2026. 11. 25～26）

OXExpo は次世代の海洋産業の発展に向けて、国内外の企業、研究機関、行政機関が集う展示会です。海洋都市横浜うみ協議会とインフォーママーケットが連携して新たに立ち上げました。



informa markets



来場事前登録は[オフィシャルウェブサイト](#)から

多くの市民・企業の皆様のご来場をお待ちしています
出展もまだ間に合います！（資料請求は[コチラ](#)から）

お問合せ先

政策調整課カーボンニュートラルポート担当課長 中村 Tel 045-671-7279



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

